

SAMPLE

特集レポート No. 092

急拡大するAI-OCR市場の現状

Strictly Confidential



2021年2月28日

はじめに

- OCR技術(Optical Character Reader)は1960年代には国内の郵便はがきの郵便番号の識別に活用されるなど、古くから特定の分野では活用されてきた。一方で、識字率の低さや特定のフォーマットにしか活用できないことを背景に広く普及するには至らなかった。
- そのOCR市場が2010年代後半から急速に拡大している。技術の進歩に加えて、AI-OCR技術が確立されたことで識字率が向上し、特定のフォーマットに依存しない識字が可能となっている。また、API連携により他のシステムとの繋ぎこみが進むことで利便性が高まっている。
- 本レポートでは急拡大するAI-OCR市場の動向について整理する。主要なプレイヤーの取組も紹介することで業界を理解する一助としたい。

本資料の流れ



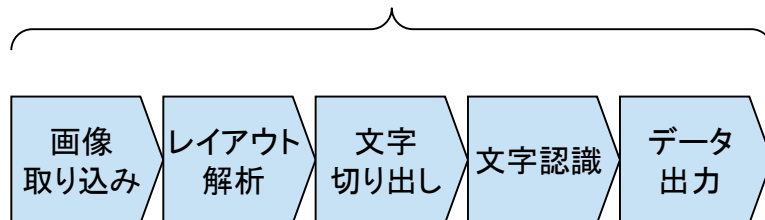
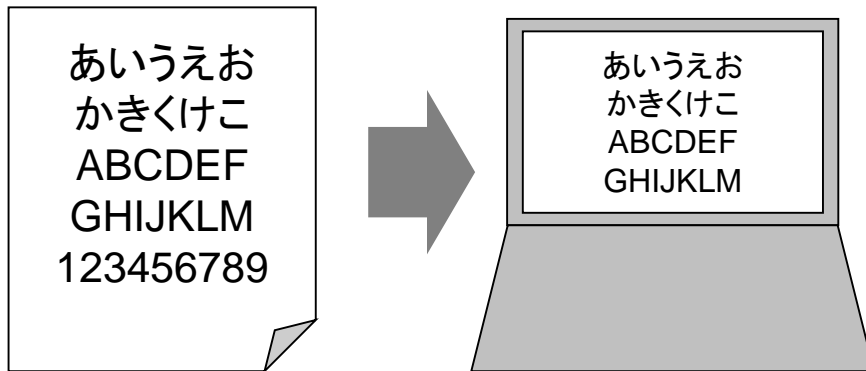
- I. AI-OCRの概要
- II. AI-OCRの主要プレイヤー
- III. 請求書サービスにおける活用状況
- IV. 今後のAI-OCRの展望

OCR技術とは

- OCR技術は、画像データのテキスト(文字)部分を認識し、データに変換する技術である
- データ入力の手間の削減などを目的に活用されている

OCR技術の概要

- OCRは、**Optical Character Reader**(またはRecognition)の略で、画像データのテキスト(文字)部分を認識し、文字データに変換する光学文字認識機能のことを言う
 - 紙文書をスキャナーで読み込み、書かれている文字を認識してデジタル化する技術



OCR技術の利用分野およびメリット

主に文書の管理とデータ入力に活用される

データの入力
作業の手間
の削減

- OCRの活用により、スキャンをすると同時に書類形式で文書が保存できるので、データ入力の手間が削減される
- 人によるチェックは必要であるものの、入力ミスなどのリスクは軽減される

保存データの
検索性の
向上

- OCRにより画像データがテキストデータに変換されることで、書かれている内容のキーワードを検索すれば簡単に必要な書類を見つけたり、文章を引き出ししたりすることが可能となる

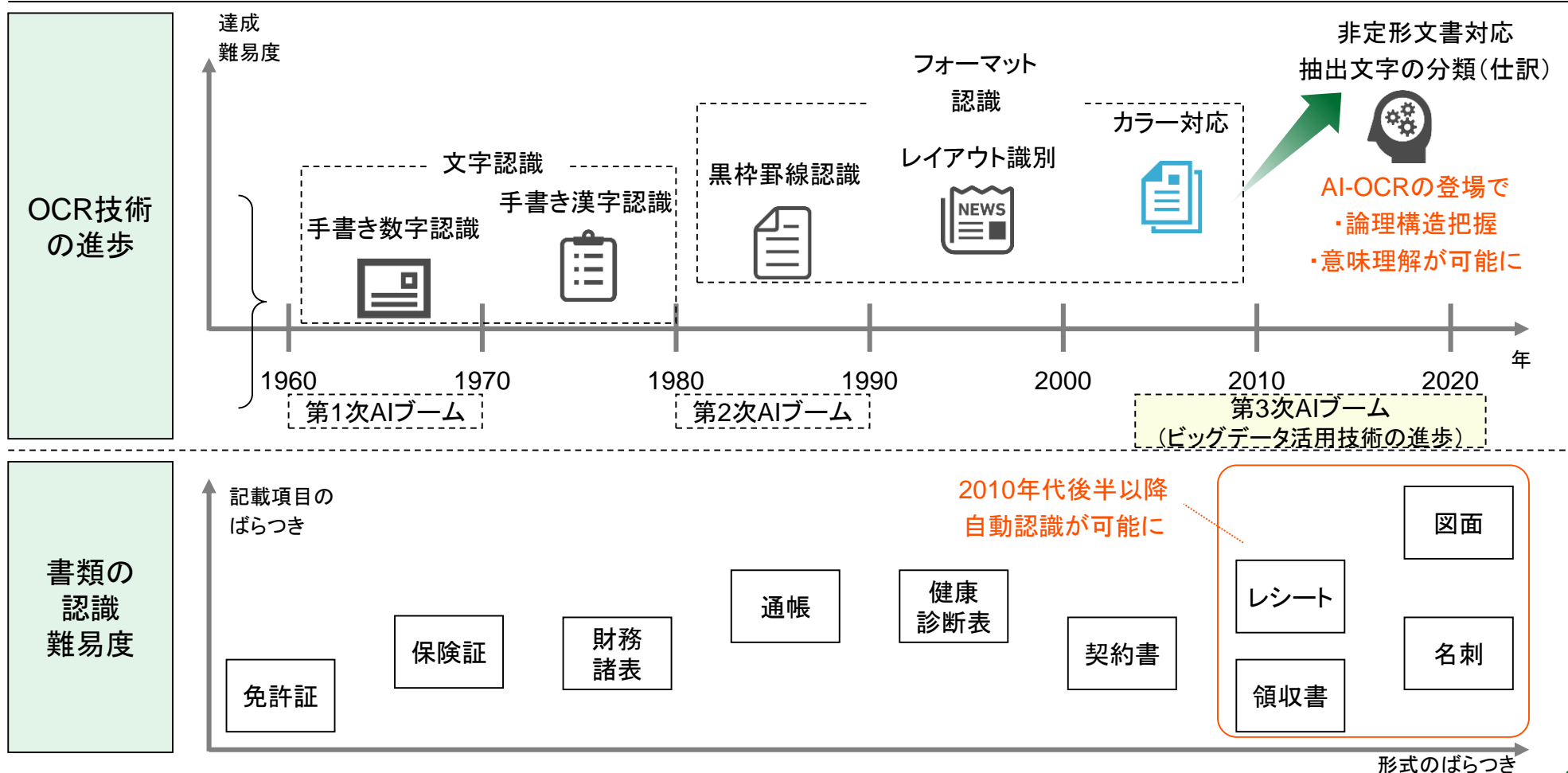
書類の修正

- WordやExcel、PowerPointなどのデータに変換が可能のため、それにより情報の修正も容易となる

OCR技術の活用領域

- OCR技術は、1960年代に登場して以降、徐々に対応可能な文字・フォーマットを増やしてきた。2010年以降、ビッグデータの活用によりAI技術が進歩したことで、急速に革新が進み、実用性が増した

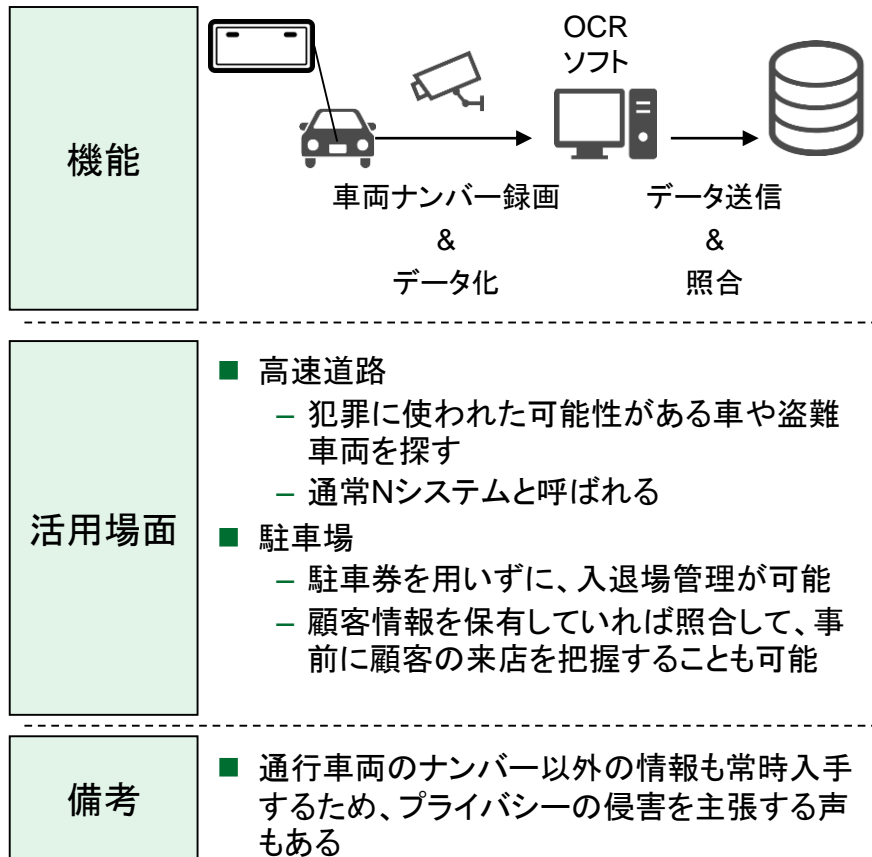
OCR技術の進歩の歴史



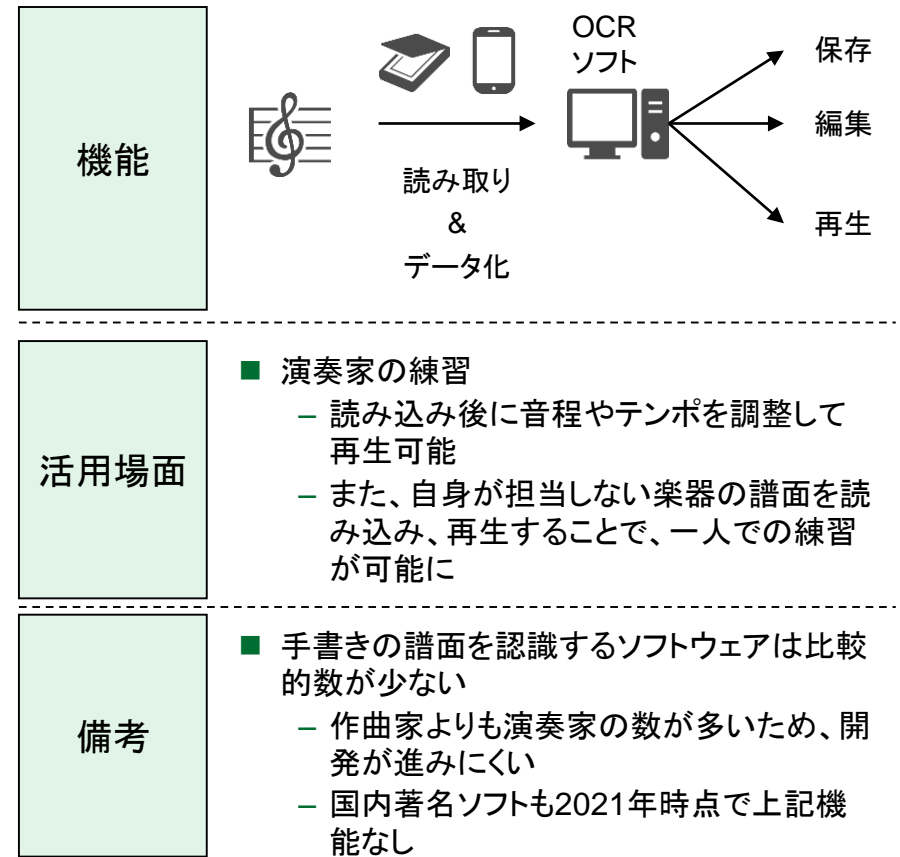
OCR技術の応用分野

- OCR技術は書類の読み込み以外にも様々な場面で活用されている

自動車ナンバー自動読取装置



楽譜OCR



OCR市場の拡大の背景

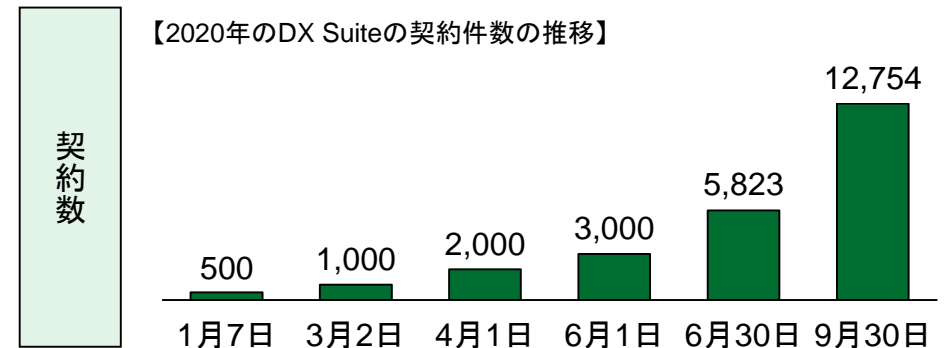
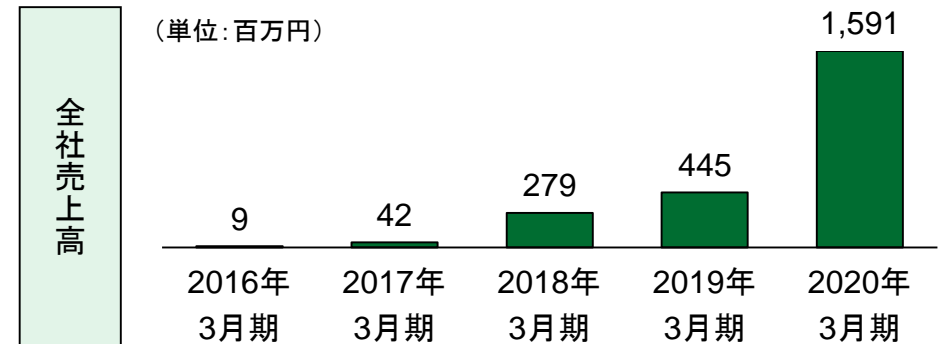
- OCR市場は技術力が進化したことが後押しして市場が急速に拡大している
- 特に、AI-OCRが登場し、実務での活用における利便性が向上したことが大きく貢献している
 - AI-OCRのトップ企業であるAI inside社は急激に売上および契約数を伸ばしている

OCR市場の拡大の理由

技術力の進化	① 識字率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史が長いOCR技術は識字率の低さから導入する企業は限定的であった ■ 認識精度の向上やデータの自動抽出機能の追加などにより利便性が向上したため導入する企業が増加
	② RPAの浸透	<ul style="list-style-type: none"> ■ RPA(Robotic Process Automation)の導入を機に入力業務の省力化や、自動化の範囲の拡大を検討する企業が増加 ■ これに伴いOCRの導入を検討する企業も増加傾向
	③ AI-OCRの登場	<ul style="list-style-type: none"> ■ 上述の識字率の向上に大きく寄与したのが、AI-OCR技術の登場 ■ また、RPAと組み合わせたデータ入力業務の省力化といった需要に対してもAI-OCRは大きな役割を果たしている
その他	④ データ共有の増加	<ul style="list-style-type: none"> ■ 情報をパソコン・スマホ・タブレットなどのデジタル端末で閲覧したり、情報が必要なときにクラウド上からデータを引きだしたりして共有する企業が増加

AI insideの業績推移

- AI insideは人工知能および関連する情報サービスの開発・提供する会社であり、現在の主力製品はAI-OCRでシェアNo.1の「DX Suite」である



SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

